

第12回目のGIS News! です

じめじめした日が続きます。暑くなったり寒くなったりと気温差が激しい毎日ですが、夏風邪など引かないよう気をつけたいものです。

さて、今回も前回に引き続き『オルソフォト』について話題提供させていただきます。最後までどうぞお付き合いください。

画像オルソフォトの特徴と利用例

1. 調査の迅速性

オルソフォトについては、前号(Vol.11)でお話しましたが、高度な位置精度(1/5000)を必要としなければ、衛星画像を利用することにより短期間で広範囲を調査できます。また、衛星写真によるオルソ画像であれば安価な経費で利用することができます。

2. 現況変化の把握

衛星写真を利用することにより擬似的な固定点観測を行うことができますので、比較することで地物の変化を割り出すことができます。

例えば、森林火災などの延焼の広がり、震災時の被害状況、天災などによる農作物の被害状況、土砂崩れなどによる地形の変化など、短期・長期に関わらず、これまで把握することが難しかった調査も可能になります。

3. 対象物の分析

衛星画像が持つ赤外線等の情報などから、地表上の対象物や現象などを判読・解析する技術が開発されています。(リモートセンシング)

この技術を利用することにより、さまざまな応用分野で利用される情報収集が図られると言われていています。(別号で詳述)

4. 地物の高さの割り出し

オルソフォトには高さの情報もありますが、現在のところ精度は±5mとあまり良くありません。また、障害物(樹木)があれば地表面の高さがわからないなどの課題もあり、今後に期待したいところです。

以上いくつかのオルソフォトの特徴と利用例をご紹介しましたが、如何でしたでしょうか?この他にもオルソフォトの応用例は多数あります。機会があれば是非、皆様のお仕事に利用されてみてはどうでしょうか?

次回のGIS News!

次回は7月9日発行予定です。よろしくお付き合い下さい!

Geographic Information System

記事:協同組合山形県地理情報センター 佐藤(秀) 発行日:2001年6月25日